

卓越した業績(Performance Excellence、パフォーマンス・エクセレンス)を目指して
—開倫塾の経営品質向上への取り組みとは—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q 1 : 開倫塾の創業と株式会社の設立はいつですか。

A : (林明夫 : 以下省略)

- (1) 開倫塾は「1979年10月」に足利市百頭町で「創業」されました。
- (2) 株式会社開倫塾は「1985年10月」に「設立」されました。
- (3) 「本社住所地」は「栃木県足利市堀込町145」です。
- (4) 塾長と代表取締役社長は創業者の林明夫です。
- (5) 事業の内容は小学校1年生から高校3年生までを対象とする学習塾です。
栃木県、群馬県、茨城県に60余の校舎を展開する北関東では屈指の本格的進学塾です。



Q 2 : 開倫塾の社会的使命(ミッション)、存在意義は何ですか。

A : (1) 「塾生の成功の実現に貢献」することです。

- ① 開倫塾では「学力」を「主体的に学ぶ力」と定義します。
- ② 「学力」を身に着けることは「多様な選択肢のある人生を歩むこと」に直結します。「学力」は「人生の成功」に結びつきます。

(2) 「地域の教育力の向上に貢献」することです。

- ① 「学力の向上」は「地域の教育力の向上」に直結します。
- ② 「地域の教育力の向上」は「正常に機能する社会の形成」に結びつきます。

Q 3 : 「開倫塾の教育目標」は何ですか。それに対応する「キー・コンピテンシーズ」は何ですか。

A : (1) 「高い倫理」…「自律的に活動する能力」

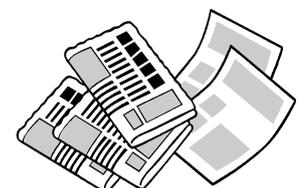
(2) 「高い学力」…「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(3) 「高い国際理解」…「多様な集団で交流する能力」

(4) 「自己学習能力の育成」…「学習の方法」を身に着けていること

- ・「読書」により「思慮深さ」を身に着けること…「書き抜き読書ノート」を。
- ・「新聞」を毎日読み、「自分で考える力」、「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に着けること…「スクラップブック」を。

* 開倫塾は「NIE(Newspaper In Education)新聞を教育へ」を推進しています。



Q 4 : 開倫塾の行動目標は何ですか。

A : (1) 「教え方日本一」を目指します。

①すべての社員が自分なりの教え方日本一を目指します。

②「授業の設計」を行い、「レessonプラン」に基づいた指導を行います。

* 「本日の目標 (Can Do キャン・ドゥー)」を示した毎日の指導

③「一人模擬授業」と「全国模擬授業大会」で、教え方を向上させます。

* 毎年5月の最終日曜日には、足利市で「全国模擬授業大会」を開催

2015年5月24日(日)10:00～17:00、白鷗大学足利高校で第10回を開催

(2) 「塾生数北関東一」を目指します。

①教え方日本一を目指す開倫塾を北関東のすみずみに。

②校舎のある地域で、地域一番塾を目指します。

Q 5 : 開倫塾の経営方針は何ですか。

A : (1) 「学ぶに値する塾づくり」

(2) 「働くに値する職場づくり」

(3) 「倒産しない会社づくり」



Q 6 : 開倫塾の全社員に共通する業務は何ですか。

A : (1) 「教育業務」…学習指導(教えること)

(2) 「募集業務」…「募集なくして教育なし」

(3) 「基本業務」…顧客・ビジネスパートナー・社員とのコミュニケーション

Q 7 : 開倫塾の社員の禁止事項は何ですか。

A : (1) 「セクシズム」…性による差別

(2) 「エイジズム」…年齢による差別

(3) 「レイシズム」…出身による差別

Q 8 : 開倫塾の経営の基本理念は何ですか。

A : (1) 「顧客本位」

①開倫塾では「顧客」を「塾生」「保護者」「地域社会」と定義。

②開倫塾では「一流校」を「塾生が進学を希望する学校」と定義。

③「学校成績の向上」と「塾生の一流校100%合格」を目指します。

(2) 「独自能力」

①独自能力の前提として「競合比較」と3つの「ベストプラクティスのベンチマーク」を徹底的に行います。

②開倫塾では「自分以外は皆師」の考えのもとで3つの「ベストプラクティスのベンチマーク」を積極的に行います。

(ア) 社内ベストプラクティスのベンチマーク

(イ) 同業他社のベストプラクティスのベンチマーク

(ウ) 異業種のベストプラクティスのベンチマーク

(3)社員重視

- ①「社員重視」の中心概念は「empowerment エンパワーメント」です。
- ②英語の「empowerment」には「能力強化」と「権限委譲」の2つの意味があります。
- ③社員一人ひとりの「能力強化」が生産性の向上、質の高い仕事、雇用の維持・拡大に直結します。
- ④「能力強化」をした社員には「権限委譲」を行います。
- ⑤開倫塾は社員が自らの潜在能力を自らの力で発見し引き伸ばす企業を目指します。

(4)社会との調和—企業市民(Corporate Citizenship)として目指すもの—

- ①法令遵守(コンプライアンス)
- ②社会貢献活動の推進(CSR)
- ③社会的企業(Social Enterprise)



Q 9 : 開倫塾で推進していることは何ですか。

A : (1)「開倫 5S 学校」

- ①「整理」 seiri …要らないものを捨てること
- ②「清掃」 seisou …掃除すること
- ③「整頓」 seiton …ものを決まったところに置くこと
- ④「清潔」 seiketsu …①～③の状態を保つこと
- ⑤「躡」 shituke …自分から進んで①～④をやること



(2)「キャリア権」推進企業宣言

- ①自分のキャリアを自分の力で形成することは基本的人権の1つ「キャリア権」と考えます。
- ②開倫塾は顧客である塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、そして何よりも社員の皆様のキャリア形成を全面的に支援するキャリア権推進企業を目指します。

(3)「開倫ユネスコ協会」はじめ「地域ユネスコ協会・ユネスコクラブ」や「日本ユネスコ協会連盟」など日本及び世界のユネスコ活動の支援

- *「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という「ユネスコ宣言」に基づくユネスコ活動の全面的支援を目指します。

Q10 : 「学習の3段階理論」とは何ですか。

A : (1)開倫塾の創業者である林明夫塾長が、1979年の創業以来考え続けた効果の上がる学習の方法です。多くの塾生、保護者、地域社会の皆様が学習する上で一番困っているのは勉強の仕方がわからないことであるということを知り、取りまとめ始めたものです。

(2)学習を「理解」「定着」「応用」の3つの段階に分け、それぞれの段階に特有の学び方を示したのが「学習の3段階理論」です。

(3)「理解」とは今学んでいることがよくわかること、「定着」とはそれを身に着けること、「応用」とは理解・定着したことを用いてテストでよい点数を取ること、社会で役立てることです。

Q11 : 「理解」とは何ですか。

- A : (1)「理解」とは「うんなるほどとよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちること」と定義します。
- (2)「理解」には自分一人で学ぶ場合と他人(つまり先生)から授業などで教わる場合があります。
- (3)「授業中に理解」するときのポイント
- ①手を机の上に置き、先生の目を見て一言も聞き漏らさないように真剣にお話を聞くこと。
 - ②先生の指示に従って積極的に授業に参加すること。
 - ③必要なことはすべてノートを取ること。「ノートを取る」ことができるのは極めて高い能力の一つです。
 - ④遅刻、欠席、早退、居眠り、おしゃべり(私語)、ケータイ、スマホ、ボーッとしていることは「授業での理解」の妨げになります。できるだけ避けましょう。
- (4)「自分で理解」するときのポイント
- ①学習する教材を決め、学校や開倫塾の先生のお話を教室でお聞きするような真剣さで教材に書いてある一語、一語を読み、これはどのようなことかを知る努力をすること。
 - ②教材に書いてある語句の意味がよくわからないときには、辞書や参考書を用いてその意味を調べる。調べた内容は必ずノートに書き写すこと。
 - ③「何がよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと」が「予習の意味」です。
*「予習」とは「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」と定義します。



Q12 : 「定着」とは何ですか。

- A : (1)「定着」とは「うんなるほどと理解した内容をスミからスミまで身に着けること」と定義します。
- (2)「定着」のためには「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」が有効です。
- (3)「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を、開倫塾では「定着のための3大練習」と定義します。

Q13 : 「音読練習」とは何ですか。

- A : 「音読練習」とは「うんなるほどと一度理解したことをスラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすること」と定義します。

Q14 : 「書き取り練習」とは何ですか。

- A : 「書き取り練習」とは「音読練習をしてスラスラとよく読めるようになったことを、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすること」と定義します。
- *「筆順」も大切です。

Q15 : 「計算・問題練習」とは何ですか。

- A : (1)これを「けいさん、ポチ、もんだいれんしゅう」と開倫塾では読みます。
- (2)「計算・問題練習」とは「なぜそのような解答になるかがよく理解できた計算や問題について、見た瞬間に条件反射で正解が出るまで計算練習、問題練習を繰り返すこと」と定義します。

Q16 : 「定着のための3大練習」をする上で大切なことは何ですか。

- A : (1)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生のことばがあります。
開倫塾では「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績の大幅向上、希望校合格、3大検定毎年合格を可能にする」と考えます。
- (2)「定着のための3大練習」の大前提は、「授業」や「自習(自己学習)」で「定着」させるべき内容がうんなるほどとよくわかっていること、つまり十分に「理解」していることです。
- (3)十分に「理解」していない意味・内容でも、音読や書き取り、計算・問題練習を繰り返すうちに少しずつわかってくるという考えもあります。そのようなこともあります。が、「定着のための3大練習」をする前に、内容の「理解」の取り組みをできるだけし続けるべきと考えます。
- (4)ここに書かれているのはどのような意味なのか、また、なぜこのような解答になるのか、その意味や価値(大切さ)を十分に「理解」した上で「定着のための3大練習」を行い、「理解」したことをすみからすみまで身に付けてください。
- (5)「定着のための3大練習」は、「学校の定期試験・実力テスト」「すべての入学試験」「すべての模擬試験」「3大検定(英語検定、漢字検定、算数・数学検定)」で絶大な効果を発揮します。

Q17:「応用」とは何ですか。

- A : (1)「応用」とは「試験でよい点数が取れること」と「社会で役立てることができること」と定義します。
- (2)「学校の定期試験や実力テストで100点満点が取れること、入学試験や検定試験、資格試験等で合格点が取れること」と定義します。
- (3)試験でよい点数を取るためには、「理解」「定着」を図った上で「過去問と予想問題を繰り返し学習すること」が最も効果的です。
- (4)「過去問」とは「その試験で過去に出題された問題」と定義します。
- ①すべての試験には「過去問」があります。試験の1~2か月前から「過去問」を数年分、できれば5~6年分以上を5~6回繰り返して学習すること。
- ②できれば5~6年分の「過去問」の「本文」「設問」「選択肢」「解答・解説」のすべてについて、辞書や参考書を用いて「理解」を図ること。「理解」したあとは「定着のための3大練習」を徹底的に行うこと。
- ③「間違いノート」と「まとめノート」を作成すること。
- (4)「予想問題」も「過去問」と全く同じ手順を踏んで学習すること。
- ①開倫塾の「定期試験対策予想問題」「模擬試験対策予想問題」「入学試験対策予想問題」「3大検定試験対策予想問題」の「的中率」が極めて高いことは、定評があります。
- ②それらを解き、答え合わせをしたあとに5~6回解き直し、辞書や参考書を用いて「理解」を図り、「定着のための3大練習」を繰り返すことは、絶大な効果があります。



Q18：社会で役立つ「応用」を図るためにはどうしたらよいですか。

A：(1)すべての科目の学習は積み重ねですので、学校や開倫塾で学んだことは上級学年や上級学校ですべて役立ちます。小学校で学んだことは中学校で、中学校で学んだことは高校で、高校で学んだことは大学・短期大学・専門学校・大学院で、高校や大学等で学んだことはすべて社会で役立ちます。

(2)上級学校や社会で役立つためには、学校や開倫塾で今までに学んだことを必要に応じて即座に引き出せなければなりません。

(3)ですから、大切なことは学校や開倫塾で学んだ教科書・教材・資料・参考書、授業ノートは絶対に処分しないこと、すぐに見られるように常に身近に置いておくことです。

(4)何かものごとを考えるときには、常に学校で学んだことをもう一度学び直してみるのが大切です。

Q19：「学力」とは何ですか。

A：(1)「学力」とは「主体的に学ぶ力」と定義します。「自分から進んで学ぶ力」が「学力」です。

(2)この意味での「学力」を身に着けるためには、「ハードな長時間学習」ができる能力を身に着けることが求められます。

(3)「学習の3段階理論」をやり抜くには、「ハードな長時間学習」と「主体的に学ぶ力」が不可欠です。

Q20：「教育の成果を決定する要因」とは何だと考えますか。

A：(1)「本人の自覚」と「先生の力量」だと考えます。

(2)「何のために学ぶのか」「進学をした学校で何がしたいのか」「何のために働くのか」「社会に出て何がしたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」などを自分の力で考える。自分なりに「高い志」を立て、そのために今何をしなければならないかを「自覚」して「主体的に学ぶこと」が大切だと考えます。

(3)「先生の力量」として最も大切なことの1つは、「本人の自覚を促すこと」です。

(4)開倫塾では、「本人の自覚を促すことを目的にした武者語り(むしやがたり)を3分以上すること」がすべての先生の義務事項となっています。

(5)今日の授業でどのような「武者語り」をして、塾生一人ひとりの「自覚を促すか」を絶えずお考えください。塾長のHPの内容は、そのための参考資料です。御活用ください。

— 2015年3月9日林明夫記—

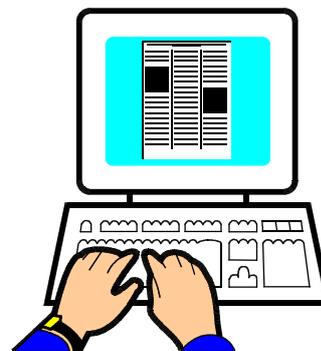
(開倫塾社員用手帳2015年度版の原稿です)



本日、3月21日からパソコン研修第1期がスタートします

開倫塾
塾長 林 明夫

1. 本日、3月21日(土)からパソコン研修がスタートします。
2. このパソコン研修は、1月末日の部長会議で開倫塾の新年度の研修をどのように行うべきかを議論する中で、石田部長の「開倫塾に最も必要なのはエクセル研修」という強い提案により実施が決定され、その日から準備が開始されて本日のスタートに至ったものです。
3. 本日の研修は部長・ブロック長を対象に行われますが、順次対象者を拡大し、校長各位、社員各位も対象にさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
4. この研修の目的は、部長・ブロック長・校長はじめ社員各位のパソコンによるコミュニケーション能力強化による労働生産性向上です。
5. このプログラムでのパソコン研修第1期の期間は、2015年3月21日(土)から10月末日頃までといたします。
6. 第1期研修の内容はエクセル初級の習得を目指すものですが、その前提として、パソコン初級とワード初級(一太郎を含む)の習得も行います。
7. (1) パソコン初級 (1) パソコン基礎
(2) パソコン初級 (2) データ整理基礎
(3) ワード初級 (1) 一太郎を含む
(4) エクセル初級 (1)
(5) エクセル初級 (2)
(6) ワード初級 (2)
8. タッチタイピングの練習を毎日少しでも行うことも、研修内容に含まれます。
9. 研修後は、ご自分の力でテキストを1ページずつ確実に「理解」した上で、次のページの「理解」にお励みください。次のパソコン研修の日までに、とにかくテキストの最終ページまで必ずご自分で学習をし終えてください。テキストの隅から隅まで確実に「理解」し、「定着」させて身に着けてください。テキストの音読練習と書き取り練習は極めて有効です。
10. パソコンは知識基盤社会のツールそのものです。知識・技術の「理解」「定着」の積み重なりの上に、新しい知識・技術の「理解」「定着」が期待できます。



本日から半年余り、どうかよろしくお願いいたします。必ず皆様のお仕事と豊かな人生の実現にお役に立つ研修です。一生役に立ちます。

春期講習会、新年度の塾生募集、ありがとうございます

開倫塾

塾長 林明夫

1. 熱心な受験指導、合格発表、TDL ツアー、春期講習会と新年度の塾生募集説明会、また、継続への取り組み、ありがとうございます。
2. 皆様のご尽力のおかげをもちまして、本年度入試で開倫塾は素晴らしい結果を出し、2015年度の春期講習会と4月からの新学期を迎えることができます。心から感謝いたします。
3. 2015年度は、今までの開倫塾の取り組みを徹底的に磨き込み、全塾生に「自主的に学ぶ力(学力)」を身に付けさせた上で、学校成績向上、3大検定合格、希望校合格を果たします。
4. そのために、志を高く持ちたく考えます。
5. 開倫塾は、これから3年間かけ、先日、日本生産性本部で安倍晋三内閣総理大臣から発表され2015年4月からスタートする「日本サービス大賞」(内閣総理大臣賞)に挑戦し、日本一の教育サービスを全社員の皆様とともに目指したく思います。
6. そのために、全社員の皆様とともに開倫塾の一つ一つの取り組みを見直し、必要不可欠な取り組みについて徹底的な磨き込みと見える化(可視化)を図り、イノベーションを図りたく考えます。
7. 「5S」、教え方や校舎運営・パソコンなどの「基礎教育」、「標準化」、「改善活動」、「統計的手法」などの「品質管理」の活動について、一つ一つ丁寧にわかりやすいしくみをつくり、また、活発に行います。
8. 経営面でも、塾生数の少ない校舎を含めて生産性向上に向けて創意工夫をめぐらし、全社員の皆様のご理解とご協力を得て、すべての校舎で利益の出るしくみづくりを目指します。



どうかよろしく願いいたします。

全社員研修会

日本サービス大賞（内閣総理大臣賞）に挑戦し、高品質の教育サービスを目指そう

開倫塾

塾長 林明夫

1. 安倍晋三内閣総理大臣は日本生産性本部での講演で、2015年度より「日本サービス大賞・内閣総理大臣賞」を設立することを宣言しました。
2. 開倫塾は、2002年に栃木県経営品質賞知事賞と、2009年にハイサービス日本300選を受賞し、教育経営品質向上に励んでまいりました。
3. そこで、この「日本サービス大賞」に2015年度より3年間かけて挑戦し、サービス産業としてのイノベーションを推し進めて顧客価値創造に取り組むことを、3月17日(火)の部長会で決定いたしました。
4. 日本サービス大賞の対象は次の通りです。
 - (1) 忘れられない感動や喜びをもたらす「物語性のあるサービス」
 - (2) お客様と一緒に双方「双方向のコミュニケーション」で価値を共に創るサービス
 - (3) 「常識を覆す」ような、今までに見たことも聞いたこともないサービス
 - (4) これまでもこれからも「長く愛され続けるサービス」
 - (5) 「そこまでやるか!」という「細部にこだわりをもっているサービス」
 - (6) 「地域や社会の活性化に貢献」し、「市場の成長」や、「雇用を生み出す」サービス
5. 日本サービス大賞の審査基準は次の通りです。
 - (1) 受け手の期待に対する達成度
 - (2) サービスをつくりとどける構造
 - (3) 変化に応じて改善するプロセス
 - (4) 地域経済の活性化や雇用創出などへの波及効果
 - (5) サービスの独創性・革新性
 - (6) サービス産業界の発展への寄与「優れたサービスをつくりとどけるしくみ」を(1)～(6)の定量的・定性的な手法で審査



6. 日本サービス大賞の日程は次の通りです。

- (1) 4月 告知
- (2) 7月 応募開始
- (3) 10月 審査開始
- (4) 冬 二次審査 現地審査 責任者ヒアリング等
- (5) 冬 最終選考会
- (6) 春 決定
- (7) 4月 表彰



7. これに加えて、同時に次の3つの賞にも今後3～5年かけて挑戦。競争力強化の基礎固めと加速を行います。

- (1) 日本経営品質賞
- (2) ポーター賞
- (3) デミング賞

8. (1) この取り組みは、開倫塾の競争力強化と、社員各位、校長各位、部長各位の能力強化に役立つものと確信いたしますので、どうかよろしくご理解とご協力を賜りたく、お願いいたします。

(2) 全員参加型の取り組みをいたしますので、是非、「対象」と「審査内容」の双方について1項目以上、「ではどうしたらよいか」と全社員が具体的に「受賞までのプロセスのご提案、実施」をお願いいたします。

(3) このプロジェクトチームのトップリーダーには「言い出しっぺ」である塾長が就任をいたしますので、どうかよろしくお願いいたします。

(4) 「日本サービス大賞」に向けての取り組みを、開倫塾のイノベーションに向けた取り組みの強力なターボエンジン、推進役といたします。

(5) すべてのスタートはイノベーションです。イノベーションとは一体何なのか、イノベーションの担い手である企業家とはどのような役割を果たすべき者なのか。

(6) イノベーションを提唱したシュンペーターはじめ、内外の様々な取り組みをゼロから大いに学んでいきましょう。

(7) 日本や世界の先人の歴史からも学びたく思います。

(8) 日本や世界の最先端の取り組みも学びたく思います。

*最も参考にすべきは「Start up Nation」、イスラエルかもしれません。

(9) その上で、社員の皆様とともに開倫塾独自の取り組みをしたいと思います。

一言

潜在成長率の向上を目指そう

超少子高齢化で人口減少が現実のものとして迫っていることに加えて、国と地方の借金が1000兆円を超す日本の最大の課題は、潜在成長率を押し上げることにあります。潜在成長率の向上に向けて、本音で提言したいと思います。

歳までという「生産年齢人口」の定義を見直し、15歳から85歳までと変更することを提言します。

同時に、1週間に8時間以上仕事に就くことを「労働参加」と定義し、15歳から85歳までの「生産年齢人口」の方々が1週間に8時間以上働く割合、つまり「労働参加率」を限りなく100%に近づけることを国や自治体の雇用政策の根幹に据えることを提言します。

また、国や自治体に対しては、子育てや親の介護をしている方、自らが病気や障害を持つ方、65歳を過ぎてリタイアした方が1週間に8時間以上働ける仕組みを戦略的に作ることを提言いたします。

潜在成長率を決定する要因は、総労働時間と労働生産性だと考えます。人口減少社会で労働人口が減っている日本で、今後、どのように総労働時間を確保し増加させたらよいのか。まず、15歳から64

高校生も学校で学ぶだけでなく、何らかの仕事に就いて週に8時間以上働くこと、何のために学ぶのか、仕事の意味とは何か、主体的に学ぶとは何かを考えるよいきっかけになります。

また、テレワークの推進や業務の見直し、マニュアルや研修体制の整備など、この実現のための方策は山ほど存在し、創意工夫によって労働参加率を高めることができます。

開倫塾
代表取締役
林 明夫

一言

労働生産性向上とキャリア権

アベノミクスの三本目の矢である経済成長を確かなものにするためには、労働生産性の向上が欠かせない。

1週間を通して8時間以上働く15歳から85歳までの人々の労働参加率を戦略的に増加させながら、一人一人の労働生産性を確実に上昇させれば潜在成長率は必ず上昇する。

では、知識が基盤となったグローバル社会で求められる労働生産性向上に直結するスキルとは何だろうか。まず第一に、

「パソコン操作の基本」と「ワード初級」、「エクセル初級」は何としても確実に身に付け、質の高い労働に結び付けたい。

第二は、中学3年から高校1年程度の英語を読み、聞き、書き、話す四つの技能だ。とりわけ、英語を書き、話す能力が身に着いていない社会人は数知れない。

第三は、自分の仕事に関する最新の知識や技術だ。

以上三者を本人の自覚を促しながら、主体的に学び続ける仕組みを戦略的に策

定し、本気になって支援し続ければ労働生産性は必ず向上する。

一人一人が自らのキャリアを自らの力で形成することは、基本的な人権の一つ、キャリア権だと考える。週に8時間以上働く人のすべてが、働くことに自分なりの意味、価値を見出して、どのように自らのキャリアを形成するかを自己決定する。それを一人一人のキャリア権と考え、企業や自治体が尊重し、全面的に支援することを潜在成長率向上、とりわけ地域経済活性化の中心に置きたい。

志ある企業や自治体には、キャリア権推進企業・推進都市の宣言を提言したい。

塾倫開
代表取締役
林 明夫

一言

潜在成長率の向上を図る視点

塾倫開
代表取締役
林 明夫

日本の潜在成長率向上の決め手の一つは、大企業の定義の大幅な見直しによる中小、中堅企業の育成だ。大企業というからには、製造業もサービス業も従業員数なら最低1000人、できれば2000人以上、払込み資本金なら最低10億円、できれば20億円以上と定義を見直し、現在の中小、中堅企業から従業員数や資本金の制約を取り除き、企業活動をしやすいことを提言したい。

また、潜在成長率向上には、全世界の

公共インフラ整備への輸出が極めて有効だ。同時に、サービス産業の海外展開も非常に効果がある。経産省とJETRO、自治体は各業界団体と連携し、サービス産業の海外展開を戦略的に支援すべきだ。まずは、JETROの海外事務所にサービス産業担当窓口の常設を提言したい。各自自治体への海外からの対内直接投資の決め手は、英語による教育が受けられるインターナショナル・スクールと英語でかかれる医院・病院・歯科医院の整備

充実だ。この二つの解消のために、国はタスクフォースを立ち上げ、規制の大幅緩和と財政支援を提言したい。

オランダなど農業先進国をベンチマークして農業の高度化、工場化を図れば、農地は大幅に不要となり、他の用途としての活用が可能となる。国や自治体はグランドデザインを描き直し、21世紀後半の国民生活を一変させるべきだ。

また、国民死亡原因のトップのガン治療には重粒子線・陽子線治療が有効と考えられており、外国への輸出と同時に、この施設を国内全域に設置することがガン撲滅と潜在成長率向上に役立つ。